

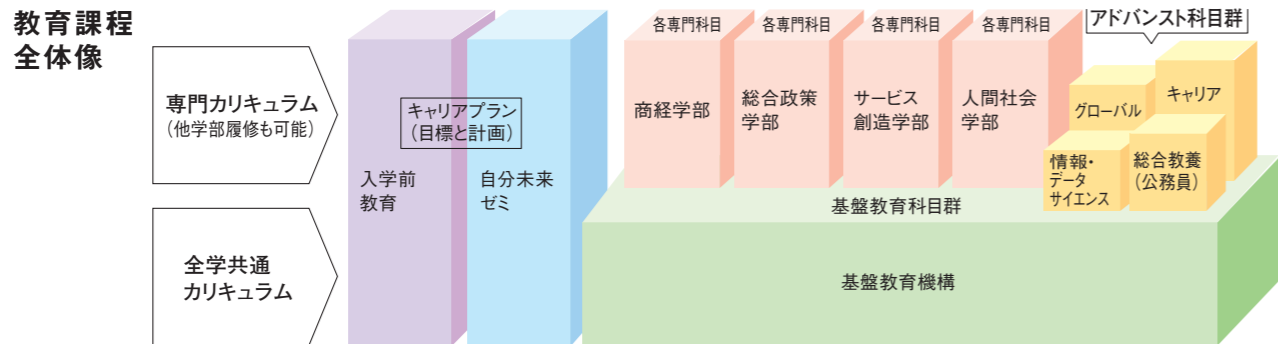


キャンパス / 千葉県市川市 学生数 / 6,424人 創立 / 1928年 建学の精神 / 有用の学術と商業道徳の涵養
 学部 / 商経、政策情報、サービス創造、人間社会、国際教養
 大学院 / 商学、政策、会計ファイナンス(専門職大学院)

教育改革コンセプト「ひとり、ひとりに、生きてく力を。」

学部学科の再編	現在		再編後	
	学部	学科	学部	学科
学部学科の再編	商経	商	商経	商
		経済		経済
		経営		経営
	政策情報	政策情報	総合政策	経済
	サービス創造	サービス創造		政策情報
	人間社会	人間社会		サービス創造
	国際教養	国際教養	人間社会	人間社会

※国際教養学部は2024年度生をもって学生募集を停止。全学横断型の国際人育成プログラムへと転換



注目 若手教職員の意欲とアイデアを生かした 思い切った学部再編、カリキュラム改革

千葉商科大学の教育改革は、全てボトムアップの形で進められた。まず、全教職員必修のSDで今後の学生募集と財務の見通しを公表し、危機意識を共有。次に全教職員がスモールグループに分かれ、「10年後も選ばれる大学になるためには」をテーマに自由に議論した。「1グループの人数を抑え、全員が意見を出せる環境をつくった。教職員一人ひとりの大学や教育に対する熱い思いを知るよい機会になった」(伊藤学務部長)。

意見交換会で出たアイデアを基に改革の方向性を議論したのは「CUC未来会議」だ。メンバーは、大学の未来を担う50歳以下の教職員。自由な発想を優先させるため、あえて学部長は参加しない。2グループに分かれ、大学がめざすべき方向性と育成する人材像を話し合い、4つの具体案を答申の形で執行部に提出した。これが今回の学部再編、カリキュラム改革の骨子となったという。本年のオープンキャンパスでは、「自分未来ゼミ」のプレ講義を、発案者の若手教員自らが実施。さっそく新しい実学教育の推進に向け走り出している。

ボトムアップ型の改革の経緯

2022年 1月下旬～ 2月上旬	SD(Staff Development・教職員研修)開催 基盤教育機構、各学部・学科、事務局等の組織別に計10回にわたって開催。意見交換を実施。
2022年 2月中旬～ 3月上旬	「スモールグループ意見交換会」開催 所属組織や教員・職員の垣根を越えて混成した17名程度からなる小グループで計18回にわたって実施。
2022年 4月～	「CUC未来会議」設置 経営改革本部長が選出した若手から中堅の教職員28名を2グループに編成。2か月間でそれぞれ計11回開催し、さらに両グループが一堂に会して意見交換するクロスセッションも実施。



若手教職員のボトムアップでつくり上げる これからの実学教育

CASE STUDY

千葉商科大学

創立100周年を前にした2025年に、全学的な学部改組と教育改革を敢行する千葉商科大学。その背景と、そこに至るまでのプロセスを聞いた。



学務部 部長
伊藤 紘太
 いろいろな人から「人に寄り添う事業を通じて社会課題を解決する企業」「エンタテインメントの可能性に挑みつつける企業」を経て、2006年9月、千葉商科大学入職。入試広報課長、学部事務課長を経て、2021年度より現職。

入試広報だけの努力ではどうにもならない時代へ

本学は「やってみる、という学び方」というコンセプトのもと、PBLなどを積極的に取り入れた学びが特長の実学教育の大学です。近年、主体性等を評価する入試改革と募集の工夫により、右肩上がりだった志願者数も、2020年度をピークに減少傾向。試算すると、もはや、入試広報の努力だけではどうにもならない人口減少により、15年後には本学の募集マーケットは半減している可能性があることがわかりました。そこで、大学の未来を担う若手教職員による「CUC未来会議」を設置し、今後も必要とされる実学教育の大学としての将来像とその実現に向けた教育改革案を検討しました。その結果、2025年に全学部改組を実施することにしたのです。

高校生や高校、社会が自学に求めるものは何か

中堅の社会科学系大学の場合、皆が明確な将来の目標を持って入学してくるわけではありません。高校も、基礎学力や社会を生き抜く力に不安がある彼らを、大学が成長させることを期待しています。加えて、VUCAの時代においては、変化に対応した学部構成や学び方が求められます。これにこたえるべく、教育改革のコンセプトは、「ひとり、ひとり、生きてく力を。」とし、社会に出てから必要な「IST+G」(情報技術・持続可能性・倫理観+グローバル)を全員が学んだうえで専門性を身に付けるカリキュラムへと編成し直しました。このうち、倫理観は、建学の精神に「商業道徳の涵養」を掲げた本学ならではのこだわりであり、グローバルは国際教養学部で行っていた国際教育を全学展開するものです。

このような横断的な学びをうまく機能させるには、学生の主体性とキャリアプランが鍵になります。引き続き主体性等を評価する入試を拡充するほか、卒業時の姿から逆算した学修目標・計画を立てる入学前教育や、入学後に他学部の仲間と切磋琢磨しながら自身の未来を構想する「自分未来ゼミ」を設けて、将来の目標を明確にするとともに、充実した学生生活を送れるきっかけをつくりました。

社会で活躍し続けるには、卒業後も学び続けることが求められます。今回の改革は「主体的な学び」を学生時代に経験し、学ぶ楽しさや価値を実感してもらうことも目的です。そのためには、私たちも時代の変化に応じてアップデートを続けたい。社会に必要とされる実学大学として存続するためには、そういった姿勢こそが欠かせません。

*1 急速に発達し、時代を動かす「Information Technology」、世界的な課題である社会・経済の持続可能性「Sustainability」、社会人としてあるべき行動の基本にある倫理観「Trust」、さらに社会的・経済的な課題を「Global」な視点で捉えることを重視